

令和3年度 第1回

「北九州市特別支援教育推進プラン」 に係る懇話会

日時 令和3年11月19日(金)

場所 子ども図書館 大研修室



teitan&black-teitan
Special Support Education City of Kitakyushu

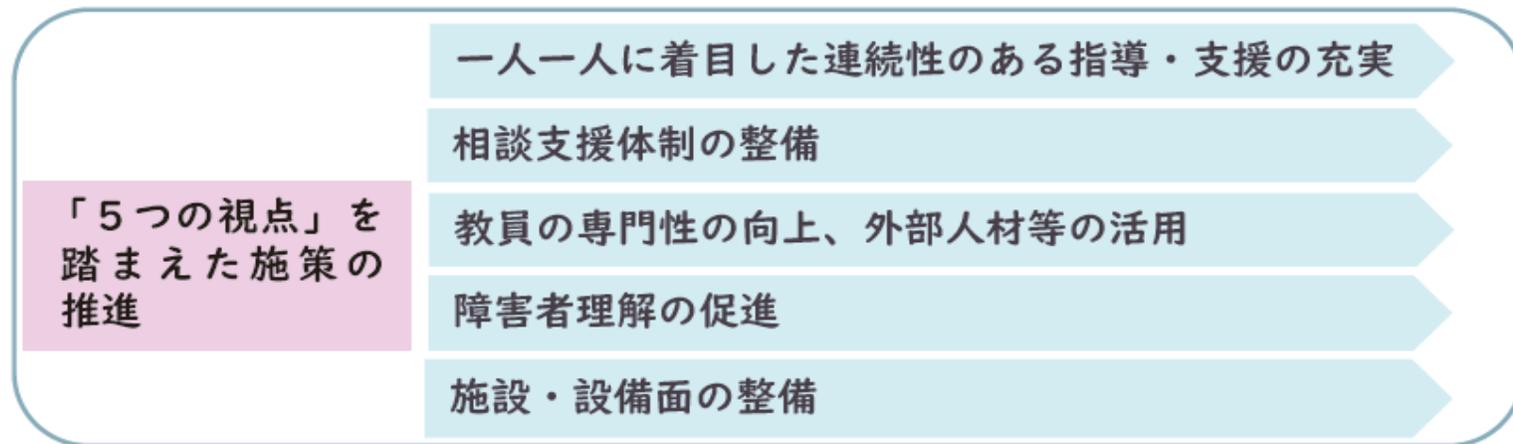
「北九州市特別支援教育推進プラン」とは

策定の目的

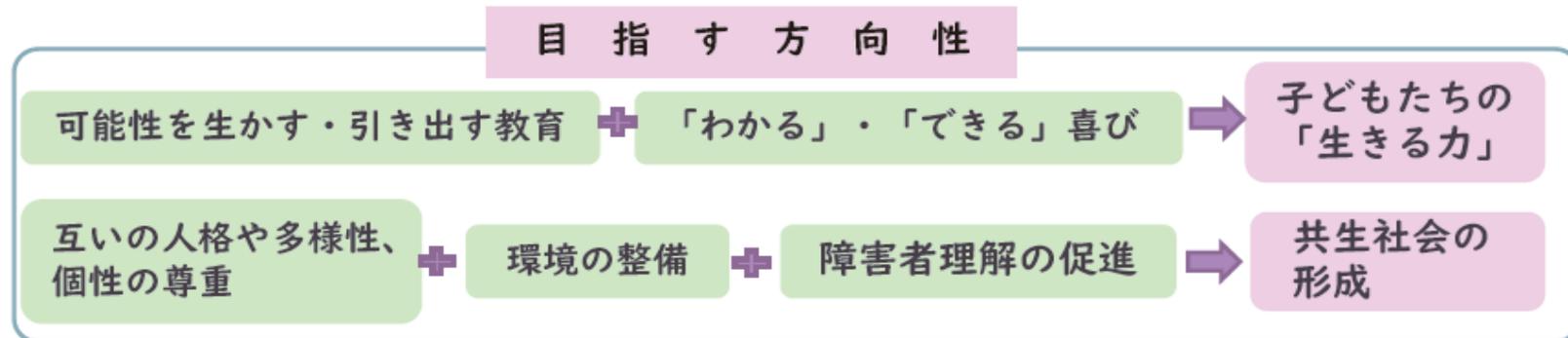
本市では、「北九州市子どもの未来をひらく教育プラン」により特別支援教育を推進してきたが、教育的ニーズの多様化に伴って、重層的な指導・支援の在り方を構築する必要性が高まってきた。

本プランでは、本市の特別支援教育の課題を整理して、中長期的な方向性を定めるとともに、「5つの視点」に基づいた「目指す方向性」を示した。

5つの視点



目指す方向性



視点

1. 一人一人に着目した連続性のある指導・支援の充実

重点項目

- (1) 通常のカリキュラムの中でできる個別の配慮や支援を求めやすい雰囲気づくりなどの工夫

目指す方向性

校内体制や関係機関等との連携の強化、校内支援体制の整備

取組み

特別支援教育コーディネーターの育成

- ・ 特別支援学校における総括コーディネーターの配置
- ・ 特別支援教育コーディネーター養成研修、特別支援教育コーディネーター連絡会議
- ・ 特別支援教育ミドルリーダー養成研修

特別支援教育コーディネーターの複数配置

- ・ 特別支援教育に関するOJTの促進
- ・ 校内支援体制を整え、関係機関等との連携による支援の充実

課題

- ・ 特別支援教育コーディネーターのさらなる専門性の向上
- ・ 関係局、関係機関等との連携の強化

視点

1. 一人一人に着目した連続性のある指導・支援の充実

重点項目

- (2) 障害特性に応じた指導・支援方法の研究・周知

目指す方向性

ICT機器等に関する教職員のノウハウの蓄積

取組み

特別支援教育に関するICT機器の活用技能の育成

- ・ 「魔法のプロジェクト」（東京大学＋ソフトバンクG）に参加する教員への支援
- ・ 「魔法のプロジェクト」と連携した特別支援学校全市全員講習会の開催
- ・ 肢体不自由特別支援学校へのタブレット型端末の早期導入

GIGAスクール構想による一人一台端末の整備

- ・ 教員のICT機器活用技術の向上のため、タブレット操作のマニュアル配布、研修の実施
- ・ 特別支援学校（知的障害）及び知的障害特別支援学級にipadを整備

課題

- ・ 児童生徒の実態や生活場面に即したICT機器等の活用機会の創出
- ・ 教員の指導技術の向上

視点

1. 一人一人に着目した連続性のある指導・支援の充実

重点項目

(5) 就労支援の充実、福祉等との連携

目指す方向性

福祉等との連携を深め、職場実習先や就労先を開拓し、就労支援の充実を図る。

取組み

就労支援コーディネーター、就労支援アドバイザーの配置

- ・ 企業情報の収集、人事担当者への障害者雇用の理解・啓発、実習受入れ企業の開拓 (Co)
- ・ 生徒、保護者向けの進路学習、実習先の生徒や卒業生のためのジョブコーチ (Ad)

就労支援専門家の派遣の拡充

- ・ 生徒、教員に対する就労技能の指導助言、各学校の特色ある作業学習への人的支援

課題

- ・ 就労支援専門家の人材確保と活用促進、学習で取り扱う新しい分野の開発
- ・ 保健福祉局やその他関係機関との連携を深め、就労先の分野拡充

視点

2. 相談支援体制の整備

重点項目

(3) 学校や関係機関等に対する特別支援教育の理解の推進

目指す方向性

就学先決定の仕組み等に関する情報提供の充実

取組み

特別支援教育相談センター相談事業の周知

- ・ 校長会議、特別支援教育コーディネーター研修、特別支援学級担当者研修等での周知
- ・ 「北九州市特別支援教育」パンフレットの作成、配付、HP掲載
- ・ 「特別支援教育だより」の作成、配信（年4回）

相談事業の充実

- ・ 相談機能の拡充（人的配置、特相センターの移転）
- ・ 本人、保護者の意向を尊重したきめ細かな相談対応
- ・ 関係機関等や未就学児への家庭など、広く分かりやすく伝えるための工夫
- ・ 増加傾向が続く就学相談への対応

課題

視点

3. 教員の専門性の向上、外部人材等の活用

重点項目

(4) 外部人材等の配置・活用、多面的な支援の充実

目指す方向性

外部専門家等の派遣

取組

教育的ニーズに応じた指導・支援のための専門家活用、人材育成

・障害の重度化・重複化、多様化に対応するため以下の外部人材を活用

*特別支援学校 : 専門医（小児科医、整形外科医等）及び
専門家（言語聴覚士、作業療法士、理学療法士、リハビリ工学技士）
看護師配置（医療的ケアの実施）

*小・中学校

自閉症・情緒障害特別支援学級 : 臨床心理士

難聴特別支援学級 : 言語聴覚士

通級指導教室（特別支援教室） : 臨床心理士、言語聴覚士、視能訓練士

※医療的ケア児支援 : 看護師派遣（訪問看護ステーション）

課題

- ・臨床研修と理論研修など、効果的な活用方法の検討。
- ・専門家の助言を踏まえた指導・支援に対する効果、検証。
- ・医療的ケア児の増加に伴う多様な就学先決定に対応するための支援体制の強化。

視点

4. 障害者理解の促進

重点項目

(2) 特別支援学校や特別支援学級の活動の紹介

目指す方向性

特別支援教育に対する理解の促進

取組み

特別支援学校・特別支援学級合同作品展の実施

- ・平成28年度～令和元年度…ウェルとばた、令和3年度…オンデマンドでの実施

「心のバリアフリー」推進事業

- ・7区の特別支援学校と小・中・高校がペアとなって交流及び共同学習を実施

学校と市民、企業との共同による教材・教具・作品づくり

- ・地域のボランティアによる特別支援学校での教材づくりなどの支援

特別支援学校における地域への学校開放・製品販売会の実施

- ・作業学習の製品を地域住民に販売

課題

- ・コロナ禍での実施方法等の見直し、ポストコロナを見据えた新しい理解・啓発の取組み
- ・市民、関係機関等への幅広い周知

視点

5. 施設・設備面の充実

重点項目

(1) 教育的ニーズに応じた学校施設・設備の整備

目指す方向性

1 施設・設備面の整備

取組

小・中学校の整備

- ・ 特別支援学級の新設・増級
- ・ 通級による指導の整備（小学校への巡回指導の導入「特別支援教室」）
（中学校への遠隔授業システムの導入）

特別支援学校の整備

- ・ 小倉総合特別支援学校の第2期整備工事（令和4年度）
- ・ 小池特別支援学校の現地建替え（令和5年度）
- ・ 小倉北特別支援学校及び北九州中央高等学園の移転・整備計画（令和7年度）

課題

- ・ 特別支援学校設置基準や施設バリアフリー法改正への対応
- ・ 特別支援学級、通級指導教室（特別支援教室）の整備方針の検討

北九州市の特別支援教育に係る現状と課題

現状 (R2)

特別支援学校

増加傾向 全国 (0.8%) 本市 (1.13%)

特別支援学級

増加傾向 全国 (3.13%) 本市 (2.95%)

通級による指導

全国 (1.37%) 本市 (0.63%)

就学相談の状況

増加傾向 H20 (538名) → R 2 (1130名)

医療的ケア児

増加傾向 H25 (31名) → R 3 (64名)

課題

- ・ 個々の教育的ニーズに的確に応えるための教員の専門性の向上
- ・ 学びの場の整備、人的配置、専門家等の活用 等

「北九州市特別支援教育推進プラン」見直しの視点

視 点

1. プランに係る施策の実績や特別支援教育に係る教育プランや行政評価等による評価
2. プラン策定後の中教審の答申等との比較
3. 国や市における新たな施策の動向
 - ICTの整備・活用
 - 特別支援教室の拡充
 - 地域の小中学校における医療的ケア児への対応
 - 小倉北特別支援学校と北九州中央高等学園の移転建替え
 - 特別支援学校設置基準への対応 など
4. コロナ感染などによる教育環境の変化
 - ⇒ 感染症などの新たな脅威への対応

方向性

「5つの視点」→維持

「主な重点項目」「目指す方向性」→付加・修正